

JA 全農 ET センターニュース平成 19 年 1 月号

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

今月号は ET センター場内における過去 5 年間（2001-2005 年）の黒毛和種受精卵（新鮮：凍結＝すべて全農ダイレクト法による）の移植成績をまとめてみました。現場で御活躍の皆様にとって何らかの参考になれば幸いです。

表-1.黒毛和種新鮮卵の移植成績

年度	移植数	妊娠数（60 日妊鑑）	受胎率
2001	894	632	70.7%
2002	962	668	69.4%
2003	1,050	724	69.0%
2004	1,138	793	69.7%
2005	1,163	801	68.9%
合計	5,207	3,618	69.5%

表-1.黒毛和種全農ダイレクト凍結卵の移植成績

年度	移植数	妊娠数（60 日妊鑑）	受胎率
2001	460	323	70.2%
2002	420	287	68.3%
2003	455	320	70.3%
2004	640	464	72.5%
2005	497	337	67.8%
合計	2,472	1,731	70.0%

この移植成績をごらんいただき、お分かりのとおり、受胎率は B ランクの新鮮卵合計で 69.5%（3,618/5,207）、ダイレクト凍結で 70.0%（1,731/2,472）で全く差がありません。この全農ダイレクト法は日本および米国、その他の国際特許を全農が取得しております。特徴は細胞毒性のある凍結保護物質の濃度を極限まで少なくしていること、細胞膜の保護効果の高いと考えられる物質を高濃度で添加していること、移植後、子宮乳によって緩やかに凍結液を希釈するシステムより、安定的（品質は A ランクを厳選）かつ高い受胎率が期待できます。本年は受精卵生産拡大のため、分場建設が進んでおります。今後も皆様に広く御利用いただけるように努力する所存ですので、本年もよろしくお願い申し上げます。